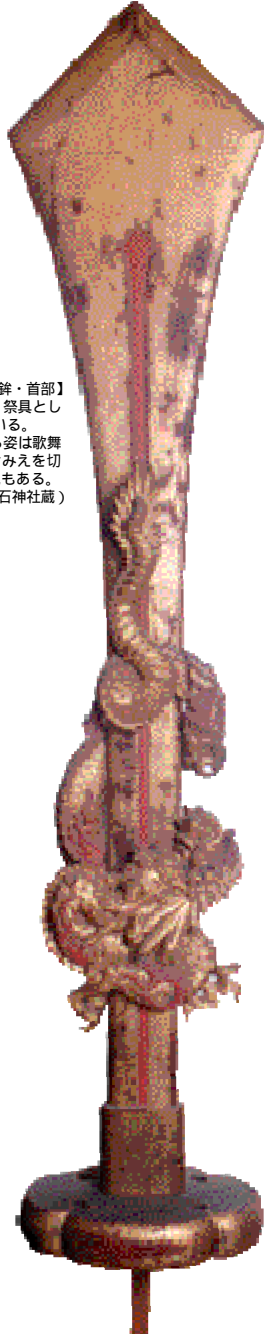


国造りの神様として信仰される天日槍命を祀り、
さまざまな伝説・儀式が今に伝わる

出石神社



出石神社 ● IZUSHIJINJA



【祭具の鉞・首部】
天日槍命は太陽光の化身とも、祭具としての鉞の擬人化とも言われている。また、龍が鉞に巻きついている姿は歌舞伎の柱まき(柱に手と足をかけみえを切ること)の原型であるとする説もある。(出石神社蔵)

身につけていましたが、ある日新羅の国の王子であった天日槍命に玉を譲りました。天日槍命が赤い玉を家に持ち帰ったところ、不思議なことに玉は美しい女性に変わり、喜んだ天日槍命はその女性を妻にします。妻になつた女性はよくつくしましたが、天日槍命は次第に高慢になって、妻を激しくののしつてしまいます。すると妻は先祖の国へ帰ります。と言いついて舟で日本に帰ってしまいました。一方、天日槍命は妻を追って日本に上陸しようとしていましたが、

な土地にしたと伝えられ、国土開発の祖神として崇拜を集めることになつたゆえんです。天日槍命は開拓技術や鉄文化を大陸から日本へ伝え、時代を大きく動かした人物として伝承されています。そして、天日槍命の子孫たちは奈良時代、畿内に進出し「三宅連・糸井造・橘守氏」を名乗り、時の中央政府の官人として活躍するのです。

出石神社の創立年代はあきらかではありませんが、社伝の「言縁起」には「羽道主命と多遲麻比那良岐と相謀りて

但馬「一宮」として知られる出石神社は、但馬開拓の神様として信仰を集める天日槍命を祀っています。天日槍命は『日本書紀』『古事記』ともに新羅國(現在の大韓民国)の王子であつて、日本に帰化されたといふ。その事蹟は前記二書のほか、『古語拾遺』、『播磨風土記』などにも見られます。

『古事記』には、昔々新羅の國の阿具治のほろりての女が簪をこつていると、日の光が輝いて虹のように照らして、赤い玉を産み落としてしまふ。それを見ていた農夫は、その女からその玉をもらひ、いづも

渡神にははまわ、やむなく但馬の國へ上陸し、そこで新たな妻をめぐり子孫を残したと記されています。

このとき、天日槍命は八種の神(古事記では「珠一宮」「振浪比礼」「切浪比礼」「振風比礼」「切風比礼」「奥津鏡」「辺津鏡」)を持って、但馬にやってきました。これらの玉が出石神社には祀られています。

伝承によれば、但馬地方にはるか昔には入江湖でした。天日槍命が豊岡市瀬戸・津居山の間の岩山を切り開き、濁流を日本海に流し、現在のような豊か

結露 しない家 建てています!

最高レベルの技術力だからできる本物の高気密・高断熱の住宅

株式会社 榎本建設 〒688-0204 出石郡出石町宮内410 TEL 0796(52)5050

おーくりふかー (株) 榎本建設豊岡営業所 〒688-0025 豊岡市幸町3-28 TEL 0796(24)2172

健康住宅セミナーのご案内 入場無料

- 11月18日(日) PM13:30~16:00
- 八鹿中央公民館
- 講師: 齊藤彰彦氏 [プロフィール]

(株) シェンソン 豊岡地区 営業 「家を建てる前に読む」 出版 (ベストセラー)



【瀬戸の岩引きの図】
出石神社由緒略記によると、天日槍命は瀬戸の岩戸を切り開いて、当時入江湖だった但馬を陸地に変えたと伝えられており、その時のようすを絵にした物が残っている。(出石神社蔵)
現実に平成12年4月、出石町袴狹遺跡から出土した木製品の中に、船の線刻画のある板材が見つかった。それには丸木船16隻の船団が描かれており、出石町あたりまで、船が行き来をしていたと推測されている。



出石神社

天日槍命を祀りと伝えられていますが諸書によると奈良朝時代すでに山陰地方の有数の大社であったことがうかがわれます。

境内の門の脇に鳥居の一部が置いてありますがこれは出石川改修の際川から出土したもので、平安時代のものだといえます。出土した付近は今でも鳥居といふ地名でかつては二の鳥居二の鳥居があったとされ二の鳥居の一部ではないかといわれています。

現在の社殿は大正3年に再建され、本殿は三間社流れ造りで南に面しています。拝殿は舞殿形式で入母屋造り平

入りで齋戸をつくり、正面に身舎の屋根と独立した平唐破風出桁の向拝は他に類のない珍しい建物です。

また、本殿の東側には約300坪の禁足地といわれる一種の聖域があります。天日槍命の墓所と言いつたところから、そこは老樹がうっそうとして茂る原始林があり、古代からの中に立ち入ってはならず、一木一草も刈り取ってはならないとすので、入れは禁裏があるといわれています。

出石神社には特殊な神事が残り、今に伝えられています。立春の日(2月)に神馬藻を奉獻する立春祭。毎年5月

5日に氏子の少年たちによつておこなわれるおまわしは、天日槍命が瀬戸を切り開いて引き揚げる道中姿をしのぶ催しとされています。また、11月23日に

おこなわれる御年花祭には、お花ひらさんと呼ばれ、太古の発火法で浄火を求め、厚さ10ミリほどの薄餅をうぐり、新嘗祭の日(10月)に供え、参拝者にまき与えます。この御年花は種々の靈験があるといわれています。

脈々と伝えられてきた出石神社の伝説、儀式は、人々の心に今も大切に受け継がれています。協力：出石神社



【出土した鳥居の一部】
境内の門の脇に出土した鳥居の一部が置いてあり、誰でも見ることができ。平安時代にはすでにこれだけ大きな鳥居の立つ神社であったことを示している。



【禁足地】
天日槍命の墓とも伝えられ、足を踏み入れてはいけない聖域とされている。

【社殿】
大正3年に再建された社殿。拝殿の正面に身舎の屋根と独立した平唐破風出桁の向拝は他に類のない珍しい建物。



出石神社や天日槍命まつわる書籍はたくさん出版されています。「古代但馬の交流人アメノヒボコ」神戸新聞総合出版センター「天のひぼこ」ほるぷ出版「俱利伽羅もんもん」秋田書店 など

権兵衛餅

開店時間 西館生活館 [0120-52-2154] (24時間営業)

出石そば

0120-52-2154